

無 断 転 載 禁

本誌に関する著作権は、一般社団法人日本銅センター(以下当センター)その他の権利者に帰属します。本誌記載内容の利用については、著作権法により認められる場合を除き、事前に当センターにご連絡の上、許諾を得ていただくようお願いいたします。



銅Cu は日本銅センターの登録商標です。

一般社団法人 日本銅センター

〒110-0005 東京都台東区上野1丁目10番10号うさぎやビル5階

TEL.03-3836-8821 FAX.03-3836-8828

<https://www.jcda.or.jp>

2026.9.2 K.natura

©2019-2026 Japan Copper Development Association

銅のすぐれた超抗菌パワー

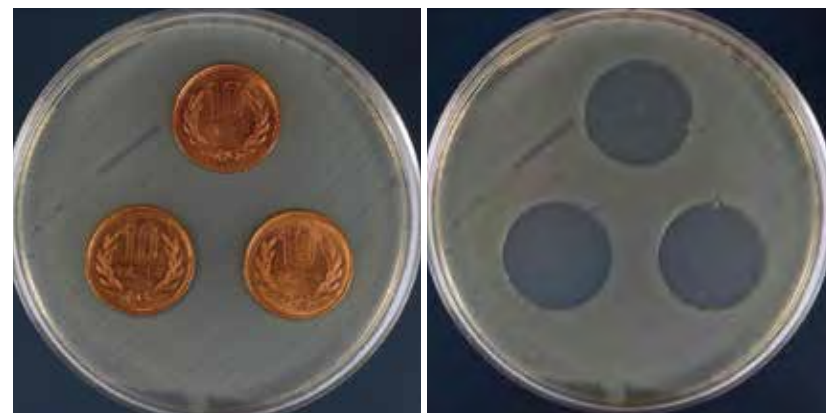
まだまだ知られていない！

(一社)日本銅センター



銅のすぐれた超抗菌パワー

19世紀の終わりに、ネーグリーという生物学者が、「微量金属作用」と呼ばれる金属の不思議な力を発見しました。微量金属作用とは「水などに溶け出したごくわずかな量の金属イオンが細菌類のはたらきを抑える効果」のことです。自然界に存在し、また私達の身近なところにある銅という金属が、この「細菌の増殖を抑える」すぐれた性能を持っていて、さまざまな分野での活用が進められています。この「銅の超抗菌パワー」を紹介しましょう。



寒天平板培地に大腸菌の菌液を塗抹し、その上に10円玉を置き、一晚培養後にこれを除去し、さらに培養しました。その結果、10円玉が接触した円形の面には菌がまったく発育していませんでした。

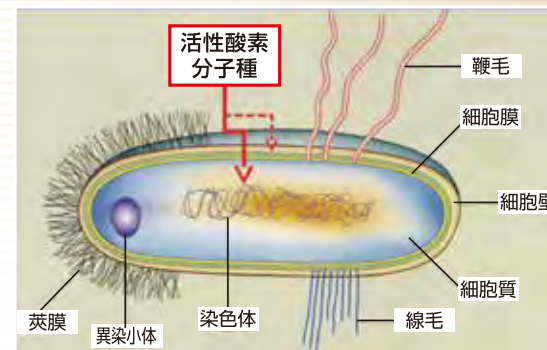


銅の超抗菌パワーのメカニズムとその効果

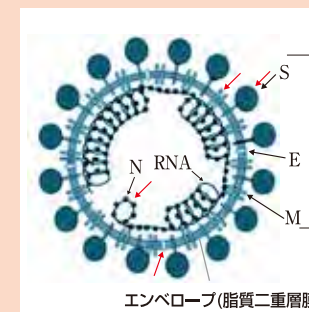
銅の細菌標的分子は？

銅は水分と反応し、強い酸化力をもつ活性酸素分子種が生成し、細菌やウイルスの標的分子を分解します。これが銅の超抗菌性能をもたらすメカニズムとされています。

● 細菌の標的部位



● コロナウイルスの構造模式図と推定標的部位



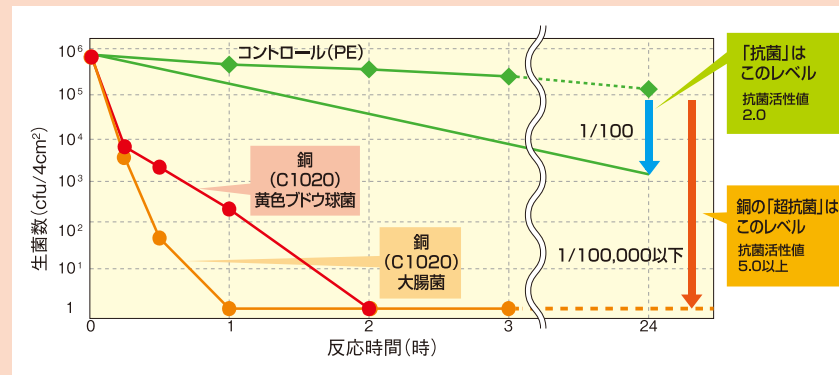
✓ 銅の推定標的部位

エンベロープタンパク質

S: スパイクタンパク質
E: エンベロープタンパク質
M: 膜タンパク質

N: スクロカプシドタンパク質

● 銅のすぐれた超抗菌性能



試験協力: (一財)北里環境科学センター

細菌やウイルスは種により抗菌・抗ウイルス効果の強弱はありますが、世の中で「抗菌性がある」と言われるレベルよりはるかにすぐれた抗菌活性値を銅は示します。これを「銅の超抗菌性能」と呼ぶことにします。

銅のすぐれた超抗菌性

銅は私たちの身近で問題になっているさまざまな病原性のある微生物や寄生虫、ウイルスに対し、抜群の超抗菌・抗ウイルス性能を発揮します。それでは、抗菌性試験などによって実証された銅のすぐれた超抗菌・抗ウイルス性能をご紹介します。

「新型コロナウイルス」に驚異的な抗ウイルス効果

2020年、わが国で「新型コロナウイルス」の感染者が初めて確認されました。その後、断続的に新しい変異株がうまれるなどして、2022年1月末時点で世界感染者数約3億7,000万人、死亡者数は約560万人、未曾有の数字となっています。他国と比べ低く抑えられてはいるものの、わが国でも2022年2月末時点で感染者数約501万4,000人、死亡者数は約2万3,000人にも達しています。

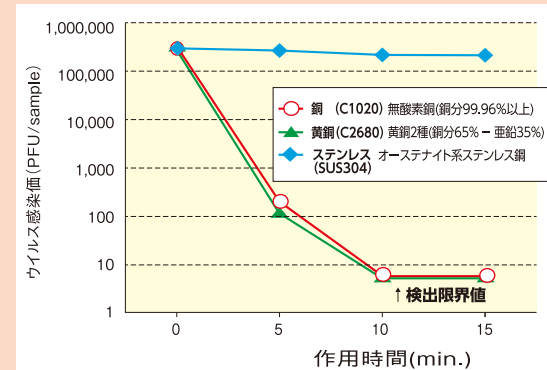
このような状況下に日本銅センターでは奈良県立医科大学に銅および銅合金の「新型コロナウイルス」に対する不活化効果の評価を依頼。このほどその試験結果が発表されました。

試験材は銅(無酸素銅C1020)および銅合金(黄銅2種C2680)、比較のためにステンレス鋼(SUS304)の3種類とし、結果、銅及び銅合金はわずか10分間でウイルス

感染価の検出限界値まで減少、この時の比較材に対する感染価減少率は99.997%でした。

新型コロナウイルスに対する不活化効果についての試験結果の詳細は以下の通りです。

●「新型コロナウイルスSARS-CoV-2」感染価の推移



試験方法:ISO21702(プラスチック及びその他の非多孔質表面の抗ウイルス活性の測定)に準じる
 試験開始時のウイルス感染価:2.93×10⁵ (PFU/sample)
 検出限界値:5.0 × 10⁰ (PFU/sample)
 検出限界時の比較材に対する感染価減少率:99.997%
 試験協力:奈良県立医科大学

新型
コロナウイルス

銅のすぐれた超抗菌性

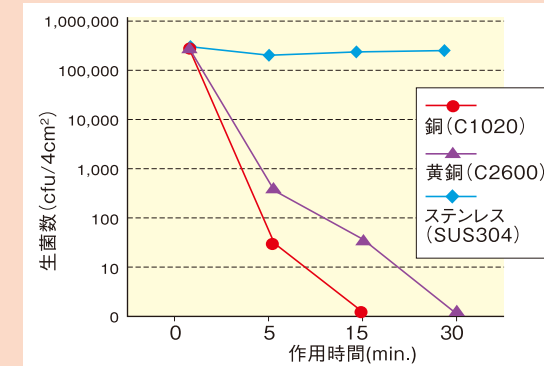
0157

0157に対してすぐれた超抗菌効果を発揮

1996年に日本でも全国で12人が死亡し、1万人あまりに出血性下痢を引き起こした腸管出血性大腸菌(0157)。夏季に流行のピークがあり、毎年4,000人前後の患者が発生しています。この感染力の強い0157に対して銅はすぐれた超抗菌効果を発揮します。0157の菌液を塗抹した寒天平板培地上に銅およ

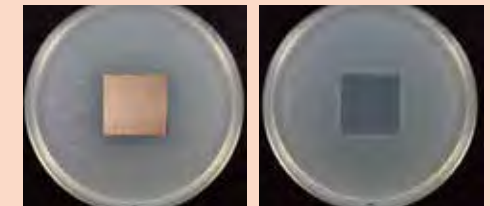
びステンレスの試験片を置き、一晚培養後に試験片を除去し、さらに培養しました。その結果、ステンレスに比べて銅が接触した面には菌はまったく生育していないことが分かりました。集団感染を起こし易い0157の感染対策の一助に銅および銅合金の利用が期待されます。

●0157に対する銅、黄銅の超抗菌効果



試験協力:(一財)北里環境科学センター

●銅(C1020)の生育阻止効果



寒天平板培地に0157の菌液を塗抹し、その上に試験片を置き35℃で一晩培養した(上左)。試験片を除去し、さらに35℃で一晩培養した(上右)。

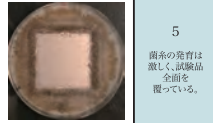
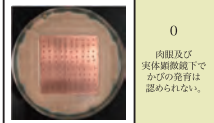
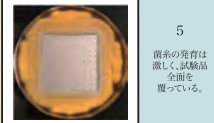
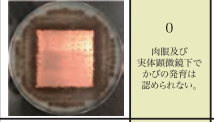
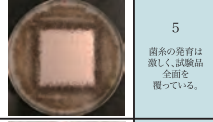
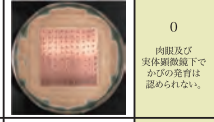
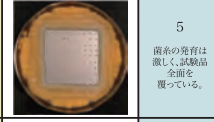
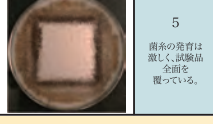
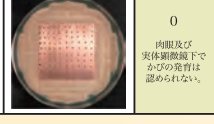
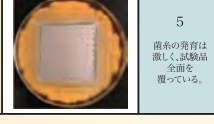
銅のすぐれた超抗菌性

防カビ

銅のカビ発育抑制効果

梅雨の時期や冬季の加湿器常用によりカビが発生するケースが増えています。カビが発生すると、変色・異臭・脆化・強度低下などの劣化が生じます。日本銅センターでは銅(C1020)およびステンレス鋼(SUS304)のカビ抵抗性試験(防カビ試験)を実施し、各試験片におけるカビの発育しにくさ(カビ抵抗性・防カビ性)を評価しました。試験には、自然環境中に広く分布するアスペルギルス・ニガー(黒コウジカビ)およびタラロマイセス・ピノフィルスを用いました。これらの孢子を液体中に均一に分散させた

試験液を調整し、培養面および試験片の上面に均等に吹き付け、カビの発育状況を観察しました。4週間後の銅におけるカビ発育の評価値は、いずれも「0」であり、肉眼及び実体顕微鏡下でカビの発育は認められませんでした。一方、ステンレス鋼の評価値は「5」であり、明らかなカビの発育が認められました。以上の結果から、銅はステンレス鋼と比較して、カビの発育を抑制する高いかび抵抗性(防カビ性)を有することが確認されました。

試験片	アスペルギルス・ニガーの4週間培養後				試験片	タラロマイセス・ピノフィルスの4週間培養後			
	Cu	判定結果	SUS	判定結果		Cu	判定結果	SUS	判定結果
1		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。	1		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。
2		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。	2		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。
3		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。	3		0 肉眼及び実体顕微鏡下でかびの発育は認められない。		5 菌糸の発育は激しく、試験品全面を覆っている。

試験協力:(一財)北里環境科学センター

銅のすぐれた超抗菌性

レジオネラ

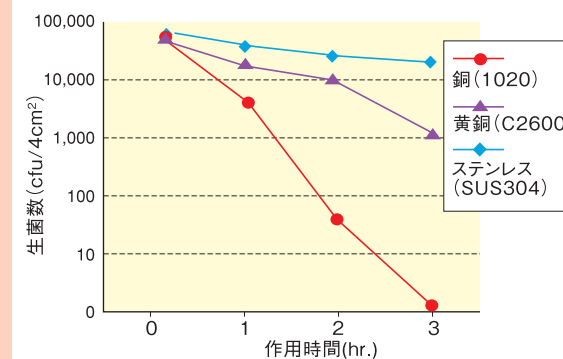
怖いレジオネラに銅の超抗菌効果

レジオネラ菌は、本来、土壌などの自然環境に生息していますが、人工環境水系(給湯設備、冷却塔、循環式浴槽など)では、アメーバを宿主として増殖することが知られています。主な感染経路は、レジオネラ菌に汚染されたエアロゾルの吸入です。わが国におけるレジオネラ症の患者数は増加傾向にあり、2025年には2,413名に達しています。

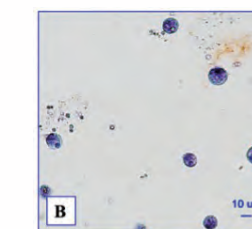
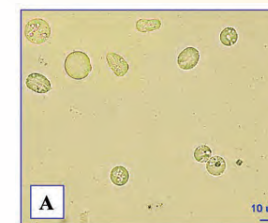
銅(C1020)、黄銅(C2600)およびステンレス鋼(SUS304)の各試験片にレジオネラ菌液を接種したところ、銅および黄銅では、作用時間の延長に伴って菌数が減少しました。一方、ステンレス鋼では、菌数の減少はわずかでした(左図)。

次に、レジオネラ菌の宿主となる自由生活性アメーバを銅(C1020)に接触させたところ、短時間で細胞が球状に変化するとともに、細胞数が減少することが確認されました。球状化した細胞(B)とコントロールの細胞(A)をトリパンブルー染色し、生細胞と死細胞を観察したところ、球状化したほぼすべての細胞(B)が青色に染まり、死滅していることが確認されました(右図)。以上のことから、銅はレジオネラ菌に対して優れた抗菌効果を示すだけでなく、レジオネラ菌の宿主となるアメーバに対しても傷害作用を有することが明らかとなりました。

●レジオネラに対する銅および黄銅の超抗菌効果



試験協力:(一財)北里環境科学センター



銅のすぐれた超抗菌性

従属栄養細菌

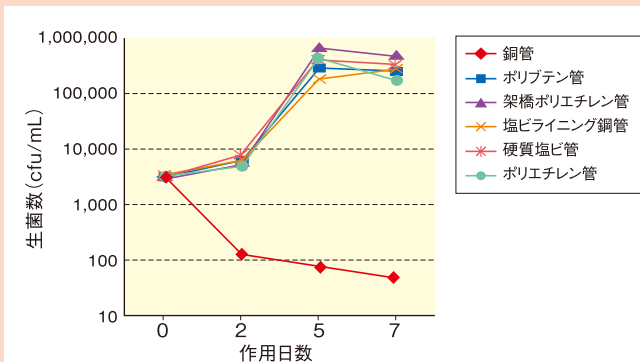
従属栄養細菌に対する銅の超抗菌効果

給配水系の水道管を通る水中には、従来の培養条件では検出されず、低栄養濃度の有機炭素を含む培地に遅れて発育してくる従属栄養細菌と呼ばれる細菌が存在する事実があります。現行の水道法ではこれらの従属栄養細菌は検査対象になっていませんが、この中に含まれるある菌種によって日和見感染を起こした事例もあることから、医療施設等において水質管理を行う際に、レジオネラと並んでこれらの従属栄養細菌の制御は重要となってきます。

そこで、給水用銅管にはバイオフィルム形成阻止性やレジオネラなどの各種細菌に対しすぐれた超抗菌

効果があることに注目し、水道水に生息する従属栄養細菌の汚染対策に活用できるか、銅管とその他の樹脂管との比較検討を行いました。その結果、従属栄養細菌は樹脂系配管において経時的に増加したのに対し、銅管では漸次減少し続け、7日後には樹脂製配管のその1/1000にまで減少しました。銅管のこのような超抗菌効果は10年経過したものでも確認されました。銅管はすぐれた超抗菌効果を長期にわたって持続的に発揮します。銅のパワーは毎日使う水道に生かされ、私たちの健康で衛生的な暮らしを支えていくことがますます期待されます。

●給水用銅管の従属栄養細菌に対する超抗菌効果



第58回全国水道研究発表会講演集,612-613,2007

銅のすぐれた超抗菌性

院内感染

院内感染対策に効果を発揮する銅

病気の治療のために訪れた病院で、別の病気をうつされる。このような「院内感染」は医療施設の信頼を揺るがすほどの問題になっています。

徹底した院内感染対策が医療施設に求められるなか、日本銅センターでは院内感染の予防に銅の超抗菌効果を役立てるという世界初の試みを国内の病院で実施しました。

評価試験は2005年～2013年の期間、北里大学病院の皮膚科病棟や新生児集中治療(NICU)病棟や外来診察室に銅および黄銅製の床板、ドアのノブやハ

ンドル、ドアの押し板、シャワーヘッド、洗面台、ボールペングリップなど設置し、一般細菌やMRSAを含むブドウ球菌や緑膿菌などの細菌について培養検査を行い、設置した所の各菌数が設置していない同じ所のそれに比べてどれ位減少したかを調べました。その結果、銅や黄銅製品を設置することで、接触および非接触環境面に付着するそれぞれの細菌数が明らかに減少することが分かりました。特に、湿度が高い環境下で超抗菌効果はより発揮されやすい傾向にありました。

●病棟に設置した銅および黄銅製の部材

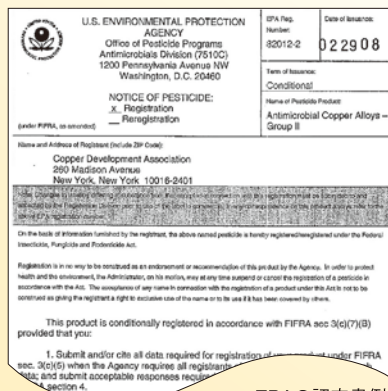


銅のすぐれた超抗菌性

銅の超抗菌作用を米国政府が認定！

2008年3月、米国環境保護庁(EPA)より、「銅、真鍮、ブロンズなどは人体に有害な致死性のある病原体を殺菌し、公衆衛生に効果がある」という表示が法的に認可されました。

EPAが公衆衛生上実際に効果があると認めた固体



EPAの認定書例



米国環境保護庁(EPA)



米国での銅の試験風景

米政府も認定!

材料は銅が初めてとのこと。EPAの認める表示は、独立した検査機関が行った試験結果に基づくもので、EPAの定める試験方法で行われ、銅および銅合金がMRSAをはじめとする各種病原細菌を殺菌することを証明したのです。この発表により、日本銅センターにおける超抗菌銅普及活動は加速していきました。

銅表面が、感染リスクを58%削減!

サウスカロライナ医科大学のM.Schmidt教授は、3つの病院で銅製のベッド柵やベッドテーブル、ナースコールボタン、点滴スタンドなどを使用し、病原菌数および感染率の減少を調査。4年間にわたる調査の結果、2011年7月、WHO ICPCIで「銅表面が感染リスクを58%削減」という検証結果を発表しました。



3病院のICUの環境表面に銅を採用

銅のすぐれた超抗菌性

超抗菌性能の証

超抗菌効果のある製品の証

銅の超抗菌性能を活かした材料、製品を世の中に広く普及させるために、日本銅センターは日本限定のCU STAR(シー・ユー・スター)マークを作製し活動を行っています。米国環境保護庁(EPA)が認めた60質量%以上の銅を含有する銅および銅合金材料やそれを用いた製品に加え、銅蒸着フィルムや銅織

維製品、銅粉をプラスチックに配合した複合製品など広く銅による超抗菌性能を有する材料、製品を対象としています。

銅の元素記号「Cu」に漢字の「銅」を組み込み、清潔感をキラリとイメージさせたCU STARマークにより銅の超抗菌性能を強くアピールしていきます。



Cu は一般社団法人日本銅センターの登録商標です

シーユースター
CU STAR
と呼んでください

CU STAR
認証書の例

銅のすぐれた超抗菌性

大学病院で!

最先端の「北里大学病院」で超抗菌効果を期待!

神奈川県相模原市にある「北里大学病院」は、建学の祖 北里柴三郎博士の理念に基づき、信頼される安全で高度な医療の実践を目指しています。同病院では2005年以来、銅の超抗菌性に着目し、さまざまな院内環境で検証を実施、接触環境の清掃や消毒を補完する素材であることを明らかにしています。2014年春には1033床を有する新病院がオープン。先の結果を踏まえ、外来、病棟、薬剤部、栄養部の各部局に合計159組の銅合金製ドアハンドルを導入しました。採用された洋白系銅合金は耐変色性にもすぐれ、現在でも美しい光沢を保っています。継続的な細菌培養検査でも、銅合金製ドアハンドル表

面に付着する一般細菌の生菌数は、クロムメッキ製のものより1/6～1/2と少ない菌数で推移しています(左図)。銅合金製ドアハンドル表面が清潔に保たれ、安心・安全な医療環境づくりに貢献しています。



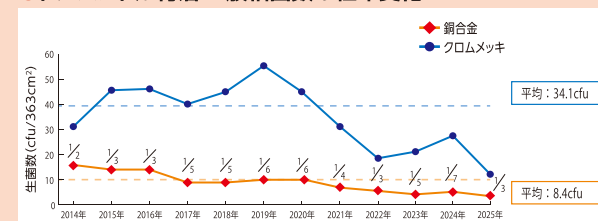
北里大学病院



各所に設置された銅合金製ドアハンドル



●ドアハンドル付着一般細菌数の経年変化



試験協力: 北里大学医学部・北里大学病院
(一財)北里環境科学センター

銅のすぐれた超抗菌性

合計約1トン!

病院として世界最大規模の銅製品を導入「千代田病院」

宮崎県日向市にある「千代田病院」。2012年6月に開院した新病院が世界中の医療関係者に注目されました。それは、「200床を越える大型病院では世界初となる大量の銅部材の採用」。

銅の超抗菌作用による院内感染対策に着目した同病院千代反田晋理事長は、銅の超抗菌作用について院内で実験検証を行い、その実証データをもと

に、ドアノブやドアハンドルなど計530箇所以上に銅製品を導入。約1トンもの銅部材の導入で、院内感染のリスク低減を図る試みに、多くの医療関係者が期待し、注目しています。

2012年から黄銅製ドアハンドルとその一部をプラスチック製テープで覆いコントロールとしたものについて細菌培養検査を行ってきました。その結果、コントロール表面の細菌類の生菌数に比べて、黄銅表面での細菌類の生菌数は極めて少ない状態を維持していることが確認されました。千代田病院でも接触環境面を黄銅製品にすることによって衛生的に清潔な院内環境が維持されていることがうかがえます。



千代田病院



千代反田 晋理事長



ドアノブやハンドルに約1トンの銅製品が使われている

●外来診察室ドアハンドルの細菌培養検査結果

		生菌数 (cfu/ドアハンドル)	
調査年度		黄銅	コントロール
一般細菌	2012	13.6 ± 19.1	598.6 ± 693.2
	2013	9.5 ± 18.4	46.4 ± 40.6
	2014	7.5 ± 13.5	44.7 ± 79.0
	2015	9.2 ± 13.3	66.3 ± 121.1
	2222	3.3 ± 5.0	NT
	2023	8.0 ± 5.9	NT
	2024	4.0 ± 6.1	NT
	2025	7.0 ± 7.7	NT
ブドウ球菌	2012	8.0 ± 13.4	54.0 ± 58.4
	2013	7.8 ± 24.7	40.6 ± 67.2
	2014	2.5 ± 4.9	49.9 ± 75.0
	2015	5.2 ± 10.6	18.9 ± 33.9
	2222	1.7 ± 2.9	NT
	2023	4.0 ± 5.8	NT
	2024	2.0 ± 6.0	NT
	2025	3.0 ± 4.0	NT
NT:実施せず			

試験協力: 北里大学医学部・千代田病院
(一財)北里環境科学センター

銅のすぐれた超抗菌性

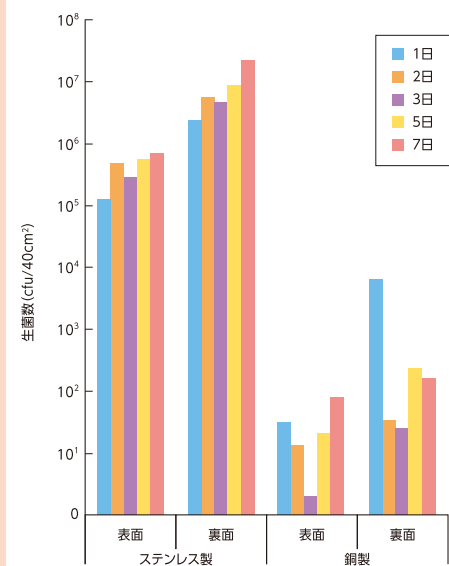
身近な
銅パワー

身近な所で威力を発揮する銅パワー

流し台排水口の銅製バスケット

銅製バスケットはステンレス製のものよりも、そこに付着するぬめりの原因となる細菌数を明らかに持続的に低減させていることが分かります(左図)。

●バスケットの表裏面に付着する細菌の調査結果



試験協力: 北里大学医学部

「銅製ボールペン」のミラクルパワー

病院内で行ったもうひとつの実験があります。ボールペンを使った実験です。新生児集中治療室にグリップ部分を銅で覆ったボールペンと普通のボールペンを設置し、グリップ部分の接触表面の細菌汚染を調べた結果、MRSAなどのブドウ球菌に対し、銅製ボールペンが大きな超抗菌効果を発揮することが立証されました。

また、銅管を30分間握った手の平の細菌数を調べた結果、銅管に触れた手の平の細菌数が31～68%の割合で減少したことから、銅合金は接触した皮膚面にも超抗菌効果を与えることがわかりました。

●MRSA培養結果

普通のボールペン



銅製ボールペン



試験協力: 北里大学医学部・北里大学病院

銅のすぐれた超抗菌性

蚊に、アオコに...

蚊に、アオコに、ナメクジに、フジツボに...

銅および銅合金の微生物に対する超抗菌効果はこれまで紹介した事例だけではありません。蚊の幼虫であるボウフラの羽化阻止、アオコ防除、ナメクジの忌避効果、フジツボなどの貝類の付着防止などさま

ざまな場面に銅および銅合金のユニークな生物学的効果が発揮されています。これらも広い意味での超抗菌効果と同じメカニズムによるものと考えています。



銅のすぐれた超抗菌性

日本銅センターでは、銅の超抗菌性能を活かした多彩な形の銅材料・銅製品を暮らしのさまざまなシーンに活用できるよう、活動を展開しています。



さまざまな
シーンで

コインは銅でできている!

10円玉だけではなく、5円玉も、50円玉も、100円玉も、500円玉も。いずれも銅を主成分とする銅合金でできており、コインの表面は細菌が繁殖せず清潔です。



100円硬貨

発行開始:昭和42(1967)年

■ 白銅

●品位：銅 ——— 750
(千分中) ニッケル - 250



50円硬貨

発行開始:昭和42(1967)年

■ 白銅

●品位：銅 ——— 750
(千分中) ニッケル - 250

銅のすぐれた超抗菌性

みんな
銅合金



500円硬貨

発行開始:令和3(2021)年

■ ニッケル黄銅、白銅、および銅

●品位：銅 ——— 750
(千分中) ニッケル - 125

垂鉛 — 125

・バイカラークラッド(2色3層構造)*

*異なる種類の金属板をサンドイッチ状に挟み込む「クラッド」技術でできた円板を、それとは異なる種類の金属でできたリングの中にはめ合わせる「バイカラー」技術で組み合わせている。



10円硬貨

発行開始:昭和34(1959)年

■青銅

●品位：銅 —— 950
(千分中) 亜鉛 —— 40～30
すず —— 10～20



5円硬貨

発行開始:昭和34(1959)年

■ 黄銅

●品位：銅 —— 600~700
(千分中) 亜鉛 —— 400~300

参考：造幣局パンフレット

知ってましたか？

「銅は大事な栄養素」

健康に欠かせない「ミネラル・銅」

ミネラル・銅

ヒト成人の体内には70～100mgの銅が含まれ、健康に不可欠の栄養成分で「微量必須元素」と言われています。銅は血液や骨を造る他に、血管や脳の働きを正常に保つ大切な役割を果たしています。一般人の1日摂取量は2～5mgで、バランスよく食事を摂れば自然に補うことができます。ちなみに銅が多く含まれる食品にはカキ（約30mg/kg）、牛レバー（約20mg/kg）、穀類や豆類、果実などがあります。

「栄養機能食品」の栄養成分の一つとしての銅

栄養機能食品

2001年3月、厚生労働省は銅を「栄養機能食品」の栄養成分の一つとしてその機能表示を承認しました。栄養機能食品とは、高齢化や食生活の乱れ等により、1日に必要な栄養成分が摂れない場合、その補給・補完のために利用する食品のことです。その栄養成分として機能表示できる成分には、銅や鉄、亜鉛など6種類のミネラル類と13種類のビタミン類があります。

新生児の発育を助ける「粉ミルクに銅」

粉ミルクへの添加

発育が盛んな新生児は成人よりたくさんの銅の摂取が必要です。出産後1か月の母乳中に含まれる銅濃度は45 μ g/dLと報告されています。そのため、人工乳である粉ミルクの銅添加量は、標準的な14%の調乳液にすると45 μ g/dLになるように320 μ g/100gとなっています。非常にわずかな量ですが、この銅が赤ちゃんの健やかな発育に役立つのです。



緑青への誤解

緑青は猛毒？それは大きな誤解です

銅のさびの一種である「緑青」は長い間有毒なものだと信じられていました。原因ははっきりしませんが、おもに当時の教科書の記述が誤解を招いたのではないかと考えられています。昭和時代の小学校の理科の教科書には「銅のサビの一種である緑青には毒性がある」と書かれていました。また当時の百科事典にも緑青は「有毒」と書かれており、これらを通じて習った知識が長い間信じられてきたようです。

この誤解をとき、銅に対する正しい理解を得るため、日本銅センターは東京大学医学部に依頼し、緑青に関する動物実験を6年間にわたって行いました。その結果、緑青は無害同様の物質であることが確認されました。

この結果を受けた厚生省（現厚生労働省）も、1981年から国の研究として動物実験に着手しました。そして3年間にわたる研究の結果、緑青は「無害に等しい」との認定を出したのです。この結果は1984年8月、NHKニュースや新聞各紙に取り上げられ、全国に向けて発信されました。

しかし、厚生省の発表から30年以上が経った現在でも、緑青が毒だというイメージは完全にはなくなっていない。銅と緑青の正しい知識がすべての人に広まることが日本銅センターの願いです。



東京神田・ニコライ堂

